

株式会社フジオフードシステム 代表取締役社長 **藤尾政弘氏に聞く**

セルフサービスの大衆食堂「まいどおおきに食堂」をはじめ、大衆居酒屋「かつぼうぎ」など24ブランド・652店舗(2013年1月現在)を超える飲食店を国内外で展開するフジオフードシステム。「食堂は大嫌いだった」という藤尾政弘社長に、生まれ育った天満の地で食堂事業をスタートさせた理由や社会貢献活動に取り組む思いについて伺った。

ふるさと天満で学んだ心の触れ合いの大切さ

母を元気づけたい一心で

私は4人兄弟の末っ子で、両親は天神橋筋商店街(大阪市北区)で食堂を営んでいました。職人さんや女性スタッフを抱え、両親は朝から深夜遅くまで働き詰め。商売人の家では普通のことですが、あまりかまってもらえず、住み込みで働くおばさんが小学校に迎えに来てくれたり、夜には一緒に寝てくれるなど気遣ってくれました。

トラブルも少なくありませんでした。あるときホールのおばさんが「ざるそば一丁」と注文を通したら、板場の職人が鍋をひっくり返して激怒したことがありました。「ざるそばは“一枚”で通せ」というのです。おばさんが困って謝っている姿を今も覚えています。

飲食業は好きでしたが、食堂という業態は大変な仕事と子ども

心に思っていましたのでしたくありませんでした。大学卒業後は、キッチンバー、カフェなど食堂以外の業態でお店を増やしていきました。お店が開店するたびに父に報告をすると、とても喜んでくれました。

しかし、1987年に父が亡くなり、母が少し元気をなくしたように思えました。私はそんな母を元気づけたい一心で、その翌年、天神橋筋商店街に「まいどおおきに食堂」の第一号店「森町食堂」をオープンさせました。

子どもの頃の体験から、女性や高齢者が笑顔で働ける食堂にしたいと思っていた私は、職人に頼らないメニューに限定し、あえて40歳以上の女性と一緒に働くことにしました。以来、店舗展開をするなかで、たくさんの雇用を生むことが社会的意義のあることだという想いも強くなってきました。

大阪天満宮と食堂経営

私は小学3年生の夏、中耳炎を悪化させてしまい、父は大切な時間をかけて手術をしてもよい方法がないかと病院探しに駆け回ってくれました。しかし、どんどん悪化する中で、大阪の北野病院で手術をすることになりました。全身麻酔をするほどの大手術でした。手術は無事に成功したのですが、聴力の回復には時間がかかりました。少しの間、補聴器などが必要な時期がありました。友だちと会話することも嫌になり、大阪天満宮の境内でひとり地面に字や絵を書いて遊ぶようになりました。ここにいれば神様が耳を治してくれるだろうと思っていました。

幸い5年生になるころには聴力も少しずつ回復し、店を手伝うことも増えてきました。料理も一通り覚えるようになりましたが、失敗もたくさんしました。出前の配達中にどんぶりを落としてしまったり、うどんのダシをほとんどこぼしてしまって、お客さんに怒鳴られ、泣きながら帰ったこともありました。店に帰ると母は心配そうに私の顔を見て、笑顔で一言「お疲れさん」とねぎらってくれました。





まいどおおきに食堂・第1号店「森町食堂」(大阪市北区天神橋)。看板やメニューの文字は藤尾社長の自筆。



「Ring of Red 交野市チャリティーマラソン(実行委員長・元阪神タイガース 赤星憲広氏)を特別協賛。写真はスタートの号砲を撃ち鳴らす藤尾社長(2012年3月)。



大阪天満宮天神祭の奉納花火の奉賛会長も引き受ける。

天神祭になると、商店街は大変なにぎわいになります。私は手伝いの合間に店先から奉納花火を遠目に眺め、「いつかはもっと近くで花火を見たい」と思っていました。

大阪天満宮は私の心の拠り所であり、天神祭には人との触れ合いの楽しさを感じました。これは食堂経営にも通じます。私は天満の地で人と人の心の触れ合いの大切さを子どもの頃から学ばせてもらいました。だから2007年に大阪天満宮花火奉賛会会長のお話をいただいたときは、喜んでお引き受けさせていただきました。

「涙そうそう」

「森町食堂」を皮切りに食堂事業を展開した弊社は、その後店舗を拡大し、創業から24年の月日をかけてようやく、大阪証券取引所のヘラクレス(現ジャスダック)市場で株式上場を果たしました。同市場で第一号の上場企業だったこともあり、当時は大きく注目されました。

大阪証券取引所の上場記念の伝統であります「大阪締め」でお祝いをしていただきました。それから会社に戻りたくさんの仲間と喜びを分かち合いました。そして夕方前になりましたが、父の墓前に報告をしようと車を走らせていたときのことで。何気なくラジオのスイッチを入れましたら、アナウンサーが森山良子さんが大切なお兄さんを亡くされた、そしてその想いを歌詞にされたそうですという語り口調の中で、「涙そうそう」が始まりました。

古いアルバムめぐり ありがとうってつぶやいた
いつもいつも胸の中 励ましてくれる人よ
晴れ渡る日も 雨の日も 浮かぶあの笑顔
思い出遠くあせても おもかげがして
よみがえる日は 涙そうそう

一番星に祈る それが私のくせになり
夕暮れに見上げる空 心いっぱいあなたを探す
悲しみにも喜びにも 想うあの笑顔
あなたの場所から私が
見えたらきつといつか 会えると信じ生きていく

(作詞:森山良子 作曲:BEGIN)

森山良子さんのお兄さんへの想いと私の父への想いがダブって、目頭が熱くなりました。そして車を停めてしばらくの間在りし日の父の思い出を追いかけてました。

その後、知人を介してお会いする機会を得ました。そして、一度お会いして意気投合し、何度かお茶をしたり食事をしたりをするようになりました。ある時、「お茶でも飲みながら気軽に聴いていただけるようなコンサートができれば」というお話を伺い、私も森山良子

さんの素晴らしい歌声を皆さんに聞いていただきたい、そんな想いもあって、2012年9月に帝国ホテル大阪で「森山良子アフタヌーンティーコンサート」を行いました。日頃おつき合いをさせていただいている方々やパートナー(店舗スタッフ)など600人を招待し、皆さんから大変喜んでいただき、心温まるひとときを過ごさせていただきました。

食博覧会への想い

毎年約3万人ないし4万人が自ら命を断つ日本の現状を考える時、私は人と人との心の触れ合いがあまりにも足りないのも一つの要因になっているのではないかと思います。「食」は触れ合いには欠かせないものです。会話をしながら一緒に食事をすれば心も和む。「食」は、人と人の心の触れ合いを媒介するものだと思います。

また、立ち仕事の外食産業は体力的にも大変な仕事です。それでも従事する人は、つねに安心・安全を考え、お客様に「美味しかったよ」「また来るね」といってもらえることを喜びとして日々頑張っています。

1985年から4年ごとに開催される食博覧会、たくさんの諸先輩の努力で今年、第8回を迎えることになります。

2013年のテーマは「食の絆」。食が取り持つ美味しくして幸せなつながりを国内外に発信する食博は、食の担い手たちの誇りと情熱によって、現在、開幕に向けて着々と準備が進められています。

商いについて

私は、商いというのは人の喜ぶ顔を見るためにする。それが醍醐味であり、店の格になると聞いています。弊社では2012年に始まった元阪神の赤星さんを実行委員長とする交野市チャリティーマラソンの特別協賛企業として、車椅子の寄付や地域活性化のお手伝いをさせていただいています。天神祭への花火協賛やコンサートの開催などといった活動も、当社の「お客様に喜んでいただくと同時に働く全ての仲間の幸せを共有できる組織でありたい」という経営理念に沿った活動です。

藤尾政弘氏

1955大阪市出身。1978年追手門学院大学経済学部卒業、1979年に個人事業でキッチンバーオープン、以後、24のブランドを立ち上げて、日本国内だけでなく海外にも展開。店舗数は652店舗。関西経済同友会幹事、食博覧会実行委員会常任理事・運営統括本部長、大阪外食産業協会副会長、追手門学院大学客員教授、大阪天満宮天神祭花火奉賛会会長等。

株式会社フジオフードシステム

本社 大阪市北区天神橋2丁目北2番6号-2F
飲食店経営、1979年創業。資本金12億559万円、社員498名、パートナー(アルバイト、パート)4,497名(2012年12月末)。